

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	岐阜県立高山工業高等学校		
実 施 期 間	平成26年10月19日(日), 29日(水), 11月21日(金)		
実 施 概 要	① 高山市南地区の文化祭への参加 (過去の課題研究作品等の展示と工作教室) ② 中学生保護者学校見学会 ③ 花里小学校との交流事業 (小学生の本校施設の見学及びものづくり体験)		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化 <input checked="" type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input checked="" type="checkbox"/> 授業公開 <input type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 校 者 数	保 護 者	約 130 人	計 約 300 人
	地域関係者	約 170 人	
実 施 状 況 と 成 果 及 び 課 題	(1) 高山市南地区の文化祭への参加 【実施日】10月19日(日) 【参加者】200名程度(内 児童70名その保護者80名) 【実施状況と成果及び課題】 ・過去の課題研究作品である「恐竜ロボット(全長4m)」「アルミロボット リベッタ君」等の展示と、「リモコンぷるぷる」(振動モータ2個をわ・わすることで操縦できるおもちゃ)の工作教室を行った。 ・小学生は「リモコンぷるぷる」に興味を持ってくれ、受付開始30分で予定していた工作教室の予約が一杯となり、48台の予定を予備の部品を使用して51台の製作として行った。工作教室には、基板に電子部品をハンダ付けする作業があり、火傷などを心配したが怪我もなく体験をさせることができた。 ・会場後方で吠えながら口や首が動く恐竜ロボットやロボットの展示も人気で、準備中から展示中と終始大盛況であった。 ・工作教室の子供達は、終始笑顔で工作を楽しんでおり、幼少期からものづくりを楽しみながら体験することで、ものづくりをより身近に感じ、興味を持ってくれたのではないかと考える。 【地域担当者の感想】 ・工業高校さんから「ものづくりをさせてみては」という提案があり、今回で4年目になるが、大変好評で感謝している。今年度の製作体験は昨年度とは違い、より難易度の高い製作体験で、小学生が体験しないハンダ付けや電子回路に触れる機会を設けることができて良かった。ぜひ来年も製作体験とロボット展示をお願いしたい。 (2) 中学生保護者見学会 【実施日】10月29日(水) 【参加者】44名(飛騨地区中学校の保護者) 【実施状況と成果及び課題】 ・普通教科の授業参観では、学力差が大きいことへの対策として習熟度別授業や少人数での分割授業を行っていることを紹介した。		

- ・各専門学科の紹介を行いながら実習室を見学し、実際に生徒が行っている電子機械科の制御実習、建築インテリア科の木工実習の様子をご覧いただいた。
- ・保護者の中には工業高校の様子を初めて見られる方も多く、実習現場を実際に見ていただくことで、工業教育がどのようなものか知っていただくことができた。
- ・このような見学会を通して本校を知っていただき、中学生の進路選択において、また地域での工業高校の存在感を増すことができた。
- ・生徒や学校のありのままの姿を見てもらうことで、生徒のあいさつや身だしなみ、校舎の清掃状況、少人数授業の充実など、本校の良さを直接感じていただくことができた。
- ・どのようにすれば、本校に足を運んでいただけない中学生の保護者の方にも本校をより深く知っていただくことができるかが課題である。

【保護者の感想】

- ・百聞は一見に如かず、外から眺めているだけでは分からない工業高校の魅力がとてもよく分かりました。進路の選択肢の一つとして、子どもにも紹介したいと思います。

(3) 花里小学校との交流事業

【実施日】 11月21日(金)

【参加者】 47名(6年生)

【実施状況と成果及び課題】

小学生の本校施設の見学及びものづくり体験

- ・施設見学：各科の特徴的な実習室の見学
- ・体験内容：キーホルダー／機械科、基板キーホルダー／電気科、
ぷるぷるいもむし／電子機械科、写真立て／建築インテリア科
- ・本校生徒にとっては、高校生としての意識の高揚を図ること、ものづくりを通して高校の学習内容を確認することができた。また、結果として、本校のPRにつなげることができた。
- ・児童は高校を訪れ、ものづくり体験等を通して工業に興味、関心を持つことができ、高校を理解することに少しはつながったように思われる。また、総合学習の授業の一環として実施することで、将来の進路について考えるよい機会となった。
- ・今回の事業の成果として、4年後一人でも多くの生徒がものづくりに興味をもち、本校を志願してくれることを期待したい。